



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 株式会社KADOKAWA

上場取引所 東

コード番号 9477 URL <http://www.kadokawa.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 辰男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営統括本部副統括本部長 (氏名) 渡辺 彰

TEL 03-3238-8561

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	111,819	△7.7	4,561	△17.3	5,508	△10.5	7,364	145.4
25年3月期第3四半期	121,170	12.7	5,517	△0.1	6,155	3.9	3,001	△14.3

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 14,751百万円 (260.5%) 25年3月期第3四半期 4,092百万円 (50.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	274.10	244.19
25年3月期第3四半期	115.95	102.65

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	151,481	105,383	69.2
25年3月期	139,898	87,545	61.8

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 104,844百万円 25年3月期 86,428百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

25年3月期期末配当金の内訳 普通配当 35円00銭 記念配当 10円00銭

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため、記載しておりません。なお、当該理由等は、添付資料3ページに記載の「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	28,115,481 株	25年3月期	27,260,800 株
26年3月期3Q	16,470 株	25年3月期	1,377,474 株
26年3月期3Q	26,868,956 株	25年3月期3Q	25,883,377 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済・金融政策などを背景に、輸出企業を中心とした企業業績の改善から景況感は改善されつつあります。また、スマートフォンやタブレット端末の普及や高速データ通信への移行が進み、デジタル化された多種多様なコンテンツを手軽に楽しめる環境が整ったことで、新たなビジネスモデルの可能性が日々高まってきています。

こうした環境下、当社グループは出版事業を核に、多種多様な領域をカバーするメガコンテンツ・パブリッシャーとしてだけでなく、デジタルコンテンツプラットフォームとして新たなユーザー向けのサービスに挑戦し事業構造の改革を進めております。

書籍関連では、メディアミックス作品の拡販、新規ジャンルの開拓、既存メディアに留まらない新たな才能の発掘を進めております。コミック雑誌市場が縮小するなか、新たな手法も取り込みながら次期主力作品の育成を進めているコミック部門での売上高の減少や、大型メディアミックス作品の展開時期による売上高の変動はあるものの、概ね全体としては堅調に推移しております。

また、平成25年12月には児童向け副読本の企画・編集力と同業界における強いブランド力を有する株式会社を株式を取得し出版領域のさらなる拡大も図りました。

雑誌・広告関連では、雑誌広告売上が回復基調にありますが、引き続き固定費の削減や不採算部門の整理を進め、また急速に普及しているスマートフォン向け新サービスやネット広告ビジネスの拡大など事業構造の転換に向けた展開を加速させております。

映像関連では、シネコン事業の売却や配給映画のコストコントロールを徹底した結果、黒字回復基調はより強固なものになってまいりました。DVD、Blu-rayにおいても、予定されていた大型タイトルが発売され順調に売上高を積み上げております。

ネット・デジタル関連では、BOOK☆WALKERを中心に積極的なキャンペーンを展開し、電子書籍の売上高をさらに伸ばしております。平成25年10月1日に外部電子書籍ストアにもご協力いただき実施した「オールカドカフェ」では驚異的な売上を獲得するとともに、新規顧客の開拓に繋げることができました。

海外関連では、台湾で堅調に推移している出版事業に加え、アニメやグッズの事業展開も推し進め売上、利益の伸長を図っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,118億1,900百万円（前年同期比7.7%減）、営業利益45億6,100百万円（前年同期比17.3%減）、経常利益55億8,000百万円（前年同期比10.5%減）、四半期純利益73億6,400百万円（前年同期比145.4%増）となりました。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

各ジャンルにおける売上貢献作品は次のとおりであります。

(単行本)

「インフェルノ」ダン・ブラウン（角川書店）

「モンスターハンター4 ザ・マスターガイド」（アスキー・メディアワークス）

「大泉エッセイ ー僕が綴った16年」大泉洋（メディアファクトリー）

(文庫)

「県庁おもてなし課」有川浩、「マリアビートル」伊坂幸太郎（角川書店）

(ライトノベル)

「ソードアート・オンライン」川原礫、「はたらく魔王さま」和ヶ原聡司（アスキー・メディアワークス）

「カゲロウデイズ」じん（自然の敵P）（エンターブレイン）

(コミックス)

「とある科学の超電磁砲」鎌池和馬／冬川基／はいむらきよたか（アスキー・メディアワークス）

「テルマエ・ロマエ」ヤマザキマリ、「坂本ですが？」佐野菜見（エンターブレイン）

「となりの関くん」森繁拓真（メディアファクトリー）

(劇場映画)

「劇場版 STEINS ; GATE 負荷領域のデジャヴ」「貞子3D2」「グランド・イリュージョン」（角川書店）

(DVD、Blu-ray)

「ワールド・ウォーZ」「映画 図書館戦争」「劇場版 STEINS ; GATE 負荷領域のデジャヴ」「デート・ア・ライブ」（角川書店）

「鍵泥棒のメソッド」（メディアファクトリー）

(ゲーム)

PSP「境界線上のホライゾンPORTABLE」(アスキー・メディアワークス)

3DS「メタルマックス4 月光のディーヴァ」(エンターブレイン)

PS3、Xbox360「KILLER IS DEAD」(角川ゲームス)

※ 作品名末のカッコ内の表記は、当社が平成25年10月1日に吸収合併した事業会社の社名を引き続きブランドカンパニー名として対外的に使用している表記を含みます。

## (2) 財政状態に関する説明

資産は、前期末に比べて115億82百万円増加し、1,514億81百万円となりました。四半期連結累計期間で過去最高益となった四半期純利益73億64百万円の計上等により現金及び預金が増加したことに加えて、保有株式の時価総額増加等により投資有価証券が増加しました。

負債は、前期末に比べて62億56百万円減少し、460億97百万円となりました。転換社債型新株予約権付社債に係る新株予約権の行使により新株予約権付社債が減少しました。なお、同社債の償還期限が1年以内になったことに伴い、表示区分を固定負債から流動負債に変更しています。

純資産は、前期末に比べて178億38百万円増加し、1,053億83百万円となりました。四半期純利益の計上等により利益剰余金が、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ増加し、さらに保有株式の時価総額増加によりその他有価証券評価差額金も増加しました。さらに、新株予約権の行使により自己株式が減少したことも純資産の増加要因となりました。

自己資本比率は、期首に比べて7.4ポイント上がり、69.2%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く市場環境は、出版、映像ともに厳しく、かつ、極めて流動的に変化しております。この環境下にあっても、当社グループは、成長を常に志向すること、新規事業への挑戦を続けることによって、市場や顧客のニーズに応えるコンテンツを創出してまいります。

当社グループは、出版と映像の相乗効果による製品付加価値の向上を追求しております。また、電子書籍やネットビジネスに積極的に取り組み、新たな商品やサービスの開発に努めております。いずれの場合も、保有するコンテンツやノウハウを最大限に活用することを基本方針としております。

当社は平成25年10月1日に連結子会社9社を吸収合併して、事業会社としての強固な基盤を確立いたしました。今後は、当社を中心としてグループの総力を挙げて、グローバル戦略、IP戦略、デジタル戦略を一段と加速してまいります。

なお、学校図書館向け児童書出版を主力とする(株)汐文社を平成25年12月に買収いたしました。買収により獲得したコンテンツ等を活用することにより、事業領域をさらに拡大してまいります。

当社は変化の激しい経済環境のなか、さらなる成長を目指して、事業構造の改革や新規事業への積極的な進出を行ってまいります。このため、短期的視点で企業活動の動向を見極めることは困難と判断いたしました。そのため、平成26年3月期の連結業績予想は記載しておりません。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,174	25,153
受取手形及び売掛金	43,218	42,886
有価証券	—	300
たな卸資産	14,223	15,061
繰延税金資産	4,517	5,348
その他	3,219	1,676
貸倒引当金	△91	△75
流動資産合計	83,262	90,351
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,979	5,633
工具、器具及び備品（純額）	1,547	1,238
土地	10,497	10,255
その他（純額）	565	1,711
有形固定資産合計	19,590	18,839
無形固定資産		
のれん	642	455
その他	2,685	3,122
無形固定資産合計	3,327	3,578
投資その他の資産		
投資有価証券	24,064	29,673
繰延税金資産	469	175
その他	9,473	9,094
貸倒引当金	△288	△229
投資その他の資産合計	33,718	38,712
固定資産合計	56,636	61,130
資産合計	139,898	151,481

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,674	20,378
短期借入金	55	23
1年内償還予定の新株予約権付社債	—	5,465
未払法人税等	961	380
賞与引当金	1,568	669
返品調整引当金	3,886	3,705
その他	9,123	7,942
流動負債合計	35,270	38,566
固定負債		
新株予約権付社債	11,000	—
長期借入金	339	265
繰延税金負債	2,195	3,633
退職給付引当金	2,716	2,980
その他	831	651
固定負債合計	17,082	7,531
負債合計	52,353	46,097
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	26,330	27,398
資本剰余金	27,375	28,442
利益剰余金	34,787	40,140
自己株式	△3,932	△47
株主資本合計	84,561	95,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,248	9,516
土地再評価差額金	△328	32
為替換算調整勘定	△2,052	△639
その他の包括利益累計額合計	1,867	8,910
少数株主持分	1,116	539
純資産合計	87,545	105,383
負債純資産合計	139,898	151,481

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	121,170	111,819
売上原価	90,269	81,565
売上総利益	30,900	30,254
返品調整引当金戻入額	3,905	3,869
返品調整引当金繰入額	4,058	3,777
差引売上総利益	30,747	30,345
販売費及び一般管理費	25,229	25,783
営業利益	5,517	4,561
営業外収益		
受取利息	38	23
受取配当金	175	238
負ののれん償却額	61	61
持分法による投資利益	123	367
受取保険金	171	43
物品売却益	132	131
その他	53	199
営業外収益合計	756	1,064
営業外費用		
支払利息	98	63
デリバティブ評価損	—	35
その他	20	19
営業外費用合計	119	118
経常利益	6,155	5,508
特別利益		
固定資産売却益	1	722
投資有価証券売却益	—	14
関係会社株式売却益	—	2,822
持分変動利益	115	—
負ののれん発生益	—	204
特別利益合計	116	3,764
特別損失		
固定資産除却損	38	21
減損損失	124	23
投資有価証券売却損	—	98
投資有価証券評価損	976	380
関係会社清算損	—	272
会員権評価損	9	1
特別退職金	84	8
その他	7	—
特別損失合計	1,241	806
税金等調整前四半期純利益	5,030	8,465
法人税等	1,957	501
少数株主損益調整前四半期純利益	3,073	7,964
少数株主利益	72	599
四半期純利益	3,001	7,364

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,073	7,964
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,000	5,268
為替換算調整勘定	17	1,429
持分法適用会社に対する持分相当額	1	89
その他の包括利益合計	1,018	6,787
四半期包括利益	4,092	14,751
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,016	14,046
少数株主に係る四半期包括利益	75	704

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債に係る新株予約権が行使されたことに伴い、新株を発行したことで資本金が10億67百万円、資本剰余金が10億67百万円増加し、また、自己株式を譲渡したことで利益剰余金が4億85百万円、自己株式が38億85百万円減少し、合計で株主資本が55億35百万円増加しております。